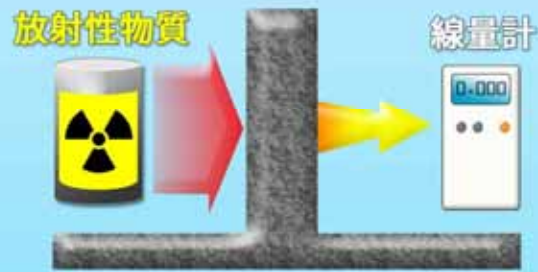


1. 2号機格納容器内部調査（放射線防護について）

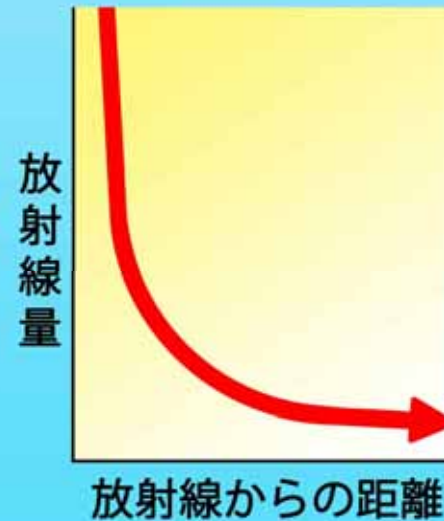
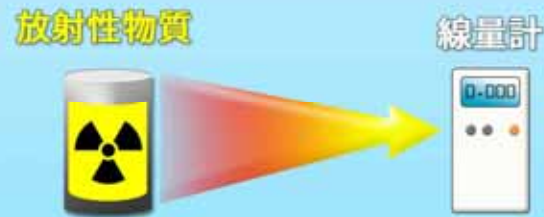
外部から受ける線量は、「しゃへい」「距離」「時間」で低減できます。

1. しゃへいをすることで低減



* 137Cs線源の例

2. 距離をとる事で低減

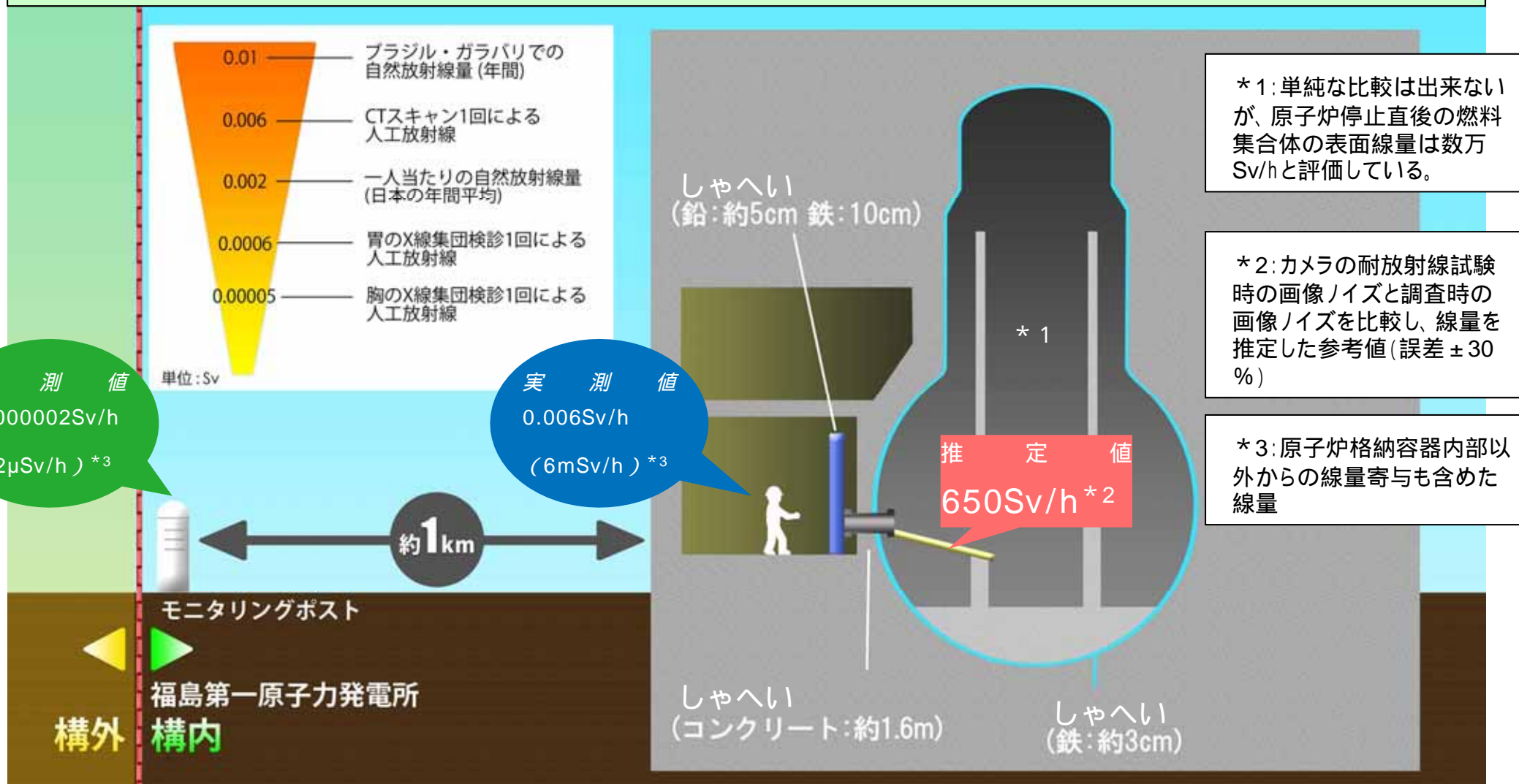


3. 時間を短くする事で低減



2 . 2号機格納容器内部調査（推定された線量について）

- しゃへい（鉄，コンクリート，鉛の壁）により低減され構外への影響はありません。
- なお，作業員も同様にしゃへいと時間管理（交代対応）により、被ばく低減を図っています。



*1:単純な比較は出来ないが、原子炉停止直後の燃料集合体の表面線量は数万Sv/hと評価している。

*2:カメラの耐放射線試験時の画像ノイズと調査時の画像ノイズを比較し、線量を推定した参考値(誤差±30%)

*3:原子炉格納容器内部以外からの線量寄与も含めた線量